

2012年9月5日

## 申立案件(受理番号 1100001)について

衛星放送のプラットフォームガイドラインに関する委員会

委員長 鳥居昭夫

### 1.概要

平成23年(2011年)11月17日、スカパー！プラットフォームを利用する登録一般放送事業者A社から、衛星放送のプラットフォームに関するガイドラインのⅡ-2-(1)-②「スカパーJSATと資本関係にある衛星事業者・衛星放送事業者との関係性についての公平性」に抵触する事案があるという申立があった。

### 2.申立の概略

平成23年下半期に国内メーカー2社からそれぞれ発売された、4波対応チューナー搭載ブルーレイディスクレコーダーについて、スカパー！プラットフォームを利用する登録一般放送事業者A社は、同社が放送しているMPEG-2方式のサービスを、当該レコーダーが受信できない点と、これに関連するスカパーJSATの対応について、当委員会に対して申立を行った。

### 3.経緯

当該レコーダー2機種は、スカパー！サービスのうち、H.264方式のみに対応しており、従来のMPEG2方式は受信できない。

124/8度衛星を利用する衛星放送サービスでは、現在多くのチャンネルが2014年度内を目処にH.264方式に移行する予定であるが、A社のチャンネルだけはMPEG2方式でサービスを今後も継続していくことが数年前から話し合われており、この点、A社とスカパーJSAT間で合意が形成されていた。

その準備作業・詳細の調整を進めていく過程において、当該製品が発売され、A社としては、このような事案の再発防止をスカパーJSATに要望した。スカパーJSATからの、自社で製造委託・販売を行っていない製品に関してスカパーJSATには製品の仕様決定権がなくA社の要望には基本的に対応できかねるという回答の後、A社が委員会への申立をおこなった。

### 4.A社側の主張

- 1) 新規契約獲得の機会を奪うものである。
  - 2) 既存契約者が対象チューナーへ入れ替えた場合、解約に繋がる可能性がある。
  - 3) これらの対象者からクレームや誤解を受ける可能性がある。
  - 4) 対象チューナーの視聴契約者は、A社の放送も含んだ形で提供されるはずの「スカパー！HD」サービスを、100%完全な形では享受できない。
  - 5) 対象チューナーは、事実上、スカパーJSAT社の放送事業者であるスカパーブロードキャスティング社の放送のみを受信できるものであり、A社の放送を除外する結果となり公平性を欠く。
- (移行が完了した時点で、制度上スカパー！HDサービスでの「放送事業者」は、申立人のA社除きスカパーブロードキャスティング社のみになり、従来衛星放送事業者であった各チャンネルは番組供給事

業者の立場で視聴者に番組を提供する。)

6) 放送事業者と視聴契約者に公平に機会やサービスを提供することは、プラットフォームであるスカパーJSAT 社の責務であり、今後発売される4波共用チューナー搭載ブルーレイレコーダーにはMPEG2チューナーが搭載されるべきである。

## 5.スカパーJSAT 社の主張

1) スカパーJSAT 社が製造委託・販売している全ての製品にはMPEG2チューナーを搭載しており、一方で懸案のような家電メーカーの市販製品は、最終的な仕様決定権がメーカーにある。また家電メーカーが独自に企画するものに関しては、他の事業者も含めたスカパー！サービス全体の普及促進という視点でも検討しなければならなかった。

2) MPEG2チューナー搭載について各家電メーカーに対して要望は出しており、今後も継続する。

## 6.審理案件として取り扱うことに関する委員会の決定

ガイドライン委員会として、本申立について「衛星放送のプラットフォームガイドラインに関する委員会」運営規則や「衛星放送のプラットフォームガイドラインに関する委員会への申立手続きについて」の規定にそって、関連書面や予備的ヒアリングを実施し、それらを基に委員会でガイドライン委員会の審理案件として取り扱うことが妥当かを検討した結果、審理案件として取り扱うことに決定した(平成23年11月29日付 受理番号1100001)。

## 7.委員会の対応

委員会では、A社・スカパーJSAT社両当事者にそれぞれ複数回ヒアリング等を実施して、関連資料の提出を要請し、それらを基に論点・状況を整理し、検討を行った。

ガイドライン委員会内規では、当事者間の話し合いを最初に優先させる旨の規定があり、これに沿って、これまでの調査検討事項から合意形成に寄与する資料を作成し、両者に提示した。

## 8.結果

両当事者間で、上記資料等に基づいて再度話し合いがもたれ、その結果、今後発売されるスカパー！HDチューナー搭載の市販製品のMPEG2対応に関して、スカパーJSAT社が継続的に努力するとともに、両社の連携を緊密にすること、また、懸案のブルーレイディスクレコーダーでA社の放送サービス視聴を希望する契約者については、別途MPEG2対応チューナーを提供するなどの措置を検討することで、本件について当事者間で合意に達した。

また、両当事者は2012年5月31日開催の第15回委員会出席し、委員会に話し合いと合意の内容について報告を行った。

以上